

特集

かつて
青年団が
あった

く九重町に
生き続ける青春



1977



1974



1974



1980



1967



1959



1966

広報

ここのえ

もくじ

特集：かつて青年団があった	2	図書館だより	20
今月の合併問題	14	教育委員会だより	21
シリーズ地域力	15	まちの話題	22
保健	16	交通安全	23
福祉／わーくす・たんぽぽ	17	くらしの情報	24
	17	人権／当番	26
県政ふれあいトーク	18	歳時記／特開旅行	27
環境／119だより	19	人の動き・ふれあいタイム	28



かつて青年団があった

九重町に生き続ける青春

この町には、元気な人がたくさんいます。人々を元気にするたくさんの方がいます。

「みんな町を良くしていこう」というチカラにあふれています。

こういったチカラは、急ごしらえではできません。多くの人の、長く地道な取り組みがあってこそ、生まれるものです。

町の土台を支え続けているチカラ。そのひとつをたどると行き当たるのが、かつての青年団。

かつて、この町でも青年団が活発な時期がありました。そこでは、自分の夢・町の将来などが夜の更けるまで語られたと言います。

多くの若者が、そこに集まり青春を燃やしました。今、この町にかつての青年団はありません。

しかし、多くの人々の中に、かつての青年団はチカラとなり生き続けています。

そして町の中にも。

市町村合併の話が進んでいます。ただ町が大きくなるのが合併ではありません。町が大きくなるからこそ、地域の問題をそこに住む人々が考え、解決していくこと。地域を元気にしていくチカラが求められます。

そんなことを考えるとき、かつての青年団に思いをめぐらすのも良いのではないのでしょうか。

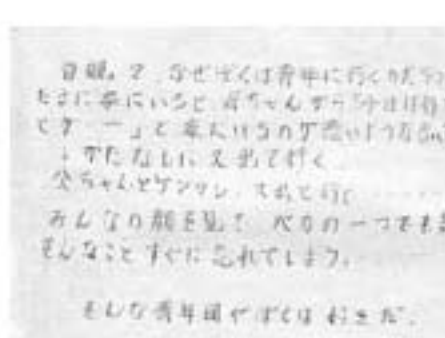
今回の特集は、かつての青年団員たちの心の中に生き続ける青春をたどります。

それは、この町に生き続ける青春を見つめるだけでなく、これからの見つけることにつながるはず。

今、この町に生き続ける青春を見つめるだけでなく、これからの見つけることにつながるはず。

今、この町に生き続ける青春を見つめるだけでなく、これからの見つけることにつながるはず。

今、この町に生き続ける青春を見つめるだけでなく、これからの見つけることにつながるはず。



▲昭和52年青年問題研究資料より



110回定期会資料 (S45)

青年リーダー研修資料 (S50)

*青年団は長い歴史がありますが、今回の特集では九重町連合青年団結成（昭和34年）以降から現在までを中心に取り上げました。



九重町連合青年団結成まで

青年団のルーツは久住山の人々のあつた若者・若者、地域の行事や祭りなどを行つたところ、仕事に関する教育を行う機関として自主的に運営されてきました。

明治時代、これら団体を目的なものから規律あるものへ変えていくという動きが生まれ、町村または大字を単位とする青年会の組織が生まれました。明治42年には連合青年会が設立。また、日清・日露戦争を契機に戦後活動としての青年会の活動が次第に進みます。以後、太平洋戦争が終るまで暫時的に軍国的色彩を持ち、軍国主義に傾倒していくことになり、大正時代、「青年団」という言葉が定着。この頃、統制を加えようとする国に対し、青年団自主化運動。つまり青年団を青年自身の手で取り戻そうという動きが生まれます。しかし、国はさらに強い圧力・統制をかけ、活動の抑制へ。

国民は戦争に巻き込まれていきます。青年団は、昭和10年には大日本青少年団に統合、青年を地域へ振り立てる機関へと変わっていきます。しかし、戦況が悪化、国家総動員体制を強化する中、半統制に編成替えさせるため、大日本青少年団も昭和20年6月に解散。そして戦後、この時点で「青年団」という名称はほとんど歴史の上から消えます。

戦後から始つてきた青年会、戦争の悲惨・敗戦の打撃でいならぬ青年会の中にあつたといえます。やがて青年は新しい時代への希望を胸に自分たちの郷土について考え始め、夜遅くまで語り合ひはじめます。それが戦後の青年団結成の第一歩の姿です。

若いころだまを追いかけ

清川昌文さん



「そう言えばこんなのが残っているんですよ」と清川昌文さん（中村）が、引き出しの奥から出してきた小冊子。昭和30年代、青年団で盛んだった「うたこえ」の歌集です。

「確か、これは私が表紙を描いたんです」。表紙には一人の少女の横顔が、頭に一羽の鳩がとまっています。歌集には平和の願いを込めた歌が収録されています。

清川さんが青年団に所属したのが20歳から30歳過ぎまで。九重町連合青年団結成時（昭和34年）には事務局長をしていました。なぜこの時期に九重町連合青年



団ができたのか。今回の特集に取り組む上で疑問でした。

「当時から分派の青年団は（左右）路線対立で分派の危機に立っていたんです。その影響もあり玖珠郡連合青年団では、分派の気運が出ていました。九重町の青年団はその動きはなく、玖珠郡連が分派するようだったらその前に九重町の青年団が旗上げしよう、ということとで連合青年団ができたんですよ」

「政治・社会問題を抜きにして話すことはなかった」と振り返るように、議論の日々でした。「議論しない日は寝付きが悪かった」と笑います。みんなそうでした。

「社会全体もそうでしたし、自分たち自身も貧しかったから、この貧困をどうすれば解決できるか、とか平和問題を熱心に話していました。喧嘩も多かったですよ」

お金がなかったということもありますが、清川さん達の青年団の取り組みのひとつに仲間結婚式があります。みんなで会費（最初は二百円くらい）を出し合い、公民館などで結婚式を挙げるもので、結納なし、引き出物なし、が決まりました。この方式で20組以上が結婚したと話します。

「みんなの前で誓いの言葉を言わなければならぬんですが、これ

は自分で作らないといけないんで、みんな苦労しましたよ。簡条書きすりゃいいんですよ、とか言いながら、よく手伝っていましたね。仲人？それは自由でした。団員が仲人することも良くありましたよ」

清川さん自身も2組の仲人をしたそうです。仲間結婚式を挙げるには厳しい審査がありました。「青年団活動の一端でしたから、中途半端なことではできません。日頃の活動状況などを厳正に審査して、通った人だけができました」2組ほどが審査で不合格になりました。

この仲間結婚式、当時の親の世代からは「体裁が悪い」と反発が強く、反対する家には団員で押しかけ、これまでの仲間結婚式のアルバムを見せながら説得したこともありです。

「最初はムツとしていた人も、式が終わる頃は『仲間結婚式はいい』とニコニコしていたのが印象に残っています。この前、仲間結婚式を挙げた人たちで還暦祝いをしましたんですけど、昔は『しけたことするなあ』と思っていたけど、今は本当に良かったねえ、と思うと話す人もいますよ」

清川さんにとって「青年団とは自分の生き方を教えてくれた団体」というように、たくさんのお話をここで学びます。

「20代の入り口は、青年団？ヤボくさい、何の得があるの？と思っ

しかし、青年団でいろいろな経験をするうちに、身近なことに置きかえたりして問題を真正面にとらえながら、飾らずありのままの考えを発言することを学んだと思います。そして常に変革を考えていくこと。それは今も変わっていませんね」

「私の一生の思想はここで学んだ」という人もいる青年団。その後の、それぞれの人生に大きな財産を残しています。そして町にも。「青年団OBの多くは、自分の損得を先に考える人はあまりいないと思います。地域のリーダーになつて、なあなあでなくて、ちゃんとしたことを言う人が多いですよ。みなさん青年団の頃と変わっていませんね。『足元を見つめながらみんなで良くなつていこう』という九重町のまちづくりも、青年団活動からの影響が大きいと思います」

今、仲間数人で「うたこえ歌集」の複製版をつくらうとしています。その中の一曲「しあわせの歌」。

当時の青年団の仲間が集まって会を開くときはいつもこの歌の合唱から始まります。

「青くせえのおり、とかいいながら歌います（笑）」

こんな歌詞が繰り返し歌われます。「みんなと歌おう しあわせの歌を ひびくこだまを 追っていきましょう」

のちのちでいながら、青年のあり方や進んでいこうと、ぜひこの歌集の複製版、農村の発展・家族制度に集約されていきます。また、暮らしの豊かさをしめすのにもつなげ、自分の考えをしっかりと伝えていこうとする「生活防衛隊」や「仲間結婚式」そして自分たちの内容を表出しよつとする「演劇活動」「うたこえ運動」など、その後の青年団活動の中心になつていくものがこの頃から現れ始めます。一方、食糧事情が安定することにも農村青年の生活が不安定になり、都市部へ流出、農村に対するしわ寄せが強くなってきます。

この項参考文獻

玖珠郡誌

大分県歴史事典

大分の青年団運動

同刊社会教育（S44）の

湯浅弘氏のレポート

うたこえ

青年団を知るための
用語集



昭和34年頃からの若い世代の仲間たち「うたこえ」を収録した歌集「うたこえ」が、この歌集の複製版として出版されています。この歌集は、当時の青年団の活動の中心となつていくものがこの頃から現れ始めます。一方、食糧事情が不安定になり、都市部へ流出、農村に対するしわ寄せが強くなってきます。

※用語集は6・7・10・11ページに収録しています。

若い力が
まさをつくっていく

日野立明さん



36年。当時、青年団長だった日野さんは選挙責任者に。ところが、日野さんの身内は対立候補を推していました。日増しに選挙戦が白熱する中、こんなことが起こります。

「奥双石だったかなあ、応援演説をしているとき、車をおろされたんですよ。乗っていた車がオヤジのだったんで、まかりならんというところで」。親戚中が大騒動だったそうです。結局、家庭を配慮して選挙戦を途中で降りざるを得なくなり、青年団長の座も譲るといふ苦い経験をします。

一方で楽しい思い出もたくさんあります。

「うたごえをとにかく良くやりました。これ一色だったんです」

取珠郡では、特に盛んだったといううたごえ運動。普段はおとなしい人もこの時は夢中になつて歌っていた姿を今でも良く思い出そうです。よく歌っていたのはトイカやカチューシャなどのロシア民謡、今でも歌えます。うたごえにはフォークダンスもついていました。これが楽しみでした。

「最初は、うたごえというところ、フォークダンスのことかと思つていました」と笑います。

各地区の体育館を回って、1週

「この頃に返ってみたい？ やっぱりそう思うことがありますね」

テーブルの上には古びた写真が一枚。昭和35年、大分県平和友好祭が飯田で行われたとき、寒の地獄で撮影した記念写真です。

日野立明さん（中果）が青年団に所属したのは昭和30年頃から40年頃までの10年間。ちょうど20代と重なります。平和友好祭があったこの年は、連合青年団の団長をしていました。

「やっぱり平和運動に一生懸命取り組んだなあ」と話す日野さんが終戦を迎えたのが10歳。田舎まで空襲を受ける心配はありませんでした。しかし、艦載機が何機も上空を通過することがあり、恐ろしかった記憶が、食糧難も経験します。

「社会全体が貧しい時代でもあり、権力に対する抵抗が強かったですね」

そうした時代背景もあり、各地で若者が青年団活動に没頭していきます。日野さんもそんな若者の一人でした。特に印象に残っているのが、青年団OBを候補に立てた町長選だと振り返ります（昭和



▲飯田で行われた平和友好祭 (S35)

たと思います」

こう話すように青年団活動は、その後の日野さんに大きな影響を与えています。

31歳、史上最年少で町議選に出馬。自分の意志でした。（当時は全町一區制ではなく地区別制。野上地区の定員6名に対して）中果地区から4名も立候補したというこの選挙、回りはまさか当選するとは思っていませんでしたが、青年団の助けなどもあり、見事当選。町議生活がスタートします（その後果議へ）。

日野さん自身も「うれしかったねえ」と振り返るように、その後、30代前半の若い議員が次々に出馬、当選していきます。背景には青年団をはじめとした「若い力」がありました。この「若い力」が九重町のまちづくりや財産を残しているに指摘します。

「九重町は若い力が作ってきた部分があると思いますよ。みんな町をつくつていこうという機運が育ち、定着しているのもそのひとつかな」

最後に、日野さんにとつて青年団とは。質問してみました。

「地域を元気づける団体。若い人が10人、20人集まればひとつの力になる」

そしてこう続けました。

「高齢の人も若い人の意見を聞くようになっていっている。もう若い人が出て挑戦して良いのでは、もっと若い人が元気を出し、引っ張つていかなければ……そうでない地方は生き残れない」。

「私の活動の基本には青年団活動があります。若い頃から随うこととなく発言する方も青年団で養え

たと思います」

こう話すように青年団活動は、その後の日野さんに大きな影響を与えています。

31歳、史上最年少で町議選に出馬。自分の意志でした。（当時は全町一區制ではなく地区別制。野上地区の定員6名に対して）中果地区から4名も立候補したというこの選挙、回りはまさか当選するとは思っていませんでしたが、青年団の助けなどもあり、見事当選。町議生活がスタートします（その後果議へ）。

日野さん自身も「うれしかったねえ」と振り返るように、その後、30代前半の若い議員が次々に出馬、当選していきます。背景には青年団をはじめとした「若い力」がありました。この「若い力」が九重町のまちづくりや財産を残しているに指摘します。

「九重町は若い力が作ってきた部分があると思いますよ。みんな町をつくつていこうという機運が育ち、定着しているのもそのひとつかな」

最後に、日野さんにとつて青年団とは。質問してみました。

「地域を元気づける団体。若い人が10人、20人集まればひとつの力になる」

そしてこう続けました。

「高齢の人も若い人の意見を聞くようになっていっている。もう若い人が出て挑戦して良いのでは、もっと若い人が元気を出し、引っ張つていかなければ……そうでない地方は生き残れない」。

「私の活動の基本には青年団活動があります。若い頃から随うこととなく発言する方も青年団で養え

九連青年団員数の推移



▲第1回連合青年団定期大会資料 (S36)

九重町連合青年団の歩み

- 昭和35 (一九六〇) 年 日出生台演習基地反対闘争に参加
- 昭和36 (一九六一) 年 町議選挙に青年団OBを立てて選挙戦・平和友好祭に参加
- 飯田青年団結成→九重連団加入
- 昭和38 (一九六三) 年 米道闘争に参加・産米同担研究会発足
- 九州うたごえ大会参加
- 昭和39 (一九六四) 年 農業青年大学講座
- 第1回取珠郡 若者の集い
- 昭和40 (一九六五) 年 野上青年団九重連団加入
- 昭和41 (一九六六) 年 取珠郡青年団連結協成
- 米道同担研究会
- 昭和42 (一九六七) 年 第1回青年団研究集会
- 昭和43 (一九六八) 年 町議全町一區制特別委員会設置
- ×1デー参加・米道特別委員会設置
- 昭和44 (一九六九) 年 リーダー研修始まる・町政対策部設置・櫻井町議会議長・農林同担研究会開く
- 昭和45 (一九七〇) 年 10周年記念大会・国内研修始まる
- 第1回町内一區単位
- 昭和46 (一九七一) 年 郷土芸能文化祭(後の青年文化祭)

青春のすべてだった

森口清司さん
恵美子さん



「それが、清司さんが大反対していたと耳にした音楽愛好会のメンバーは、良い印象を持ちません。ところが、清司さんが大変身。先頭を切って資金を集め、東京への引率まですることに。」

「それまでは、青年団に出たり入ったりで、あまり活動してなかったんですよ」と振り返る、清司さん。恵美子さんとの出会いのきっかけをつくった資金集めを契機に青年団活動にのめり込んでいきます。ついには、「低迷する青年団に新風を」と、団長に立候補。当選します。清司さんが、役員や団長をした時代は、「自分たちの地域のことをもっと知ろう」と、民謡・伝説をもとにした創作劇（文化祭）や町内一周駅伝、国内研修などが始まります。団員パジャマ作りもした。

清司さんが青年団に所属したのが連合青年団の団長をした昭和46年を挟んだ数年間。当時は団員数も多く、考え方の違いから対立なども良くあったそうです。恵美子さんは当時、青年団ではなく、音楽愛好会（昭和43年発足）に所属していました。音楽愛好会は、青年団から分かれたグループ。お互いにしっくりいかないところがあつたようです。そんなとき、音楽愛好会が県のコンクールで優勝。東京での全国大会に出ることになります。資金がない。そこで、青年団が協力しようという話が出てきます。しかし、団の役員をしていた清司さんが大反対。結局、「愛好会のメンバーも青年団に入ることを条件に」協力することになり

「あの頃は迷惑をかけたな」と恵美子さんをいたわりながら振り返ります。当時「地区根性」の解消を図る意味もあり町議選の全町一区制を青年団は主張していました。清司さんが青年団にいた頃は、実際に向けて少しずつコマを進めていた時期でした。

「選挙にも相当頭をつっこんでいました。応援演説もしました。みんな上手でしたよ。議会を傍聴し、議事録を徹夜で作って配ったこともありました。良くあんなことを言えたなあ、ということを行政とかに言っていました。町長の家に押しかけたこともありますよ。今考えると、恐ろしいですね（笑）。若さゆえ、でしょうか」

「あの頃はとにかく議論していた」と振り返る日々がもの言える青年を作っていました。やがてそう言った人たちが町を引っ張っていきます。

「（青年団経験者は）町政に対して、自分の意見をきちんと言える人が多いと思います。それが、まちづくりの良い影響を与えていると思います。町長などトップに立つ人に普通にものが言える、つてすばらしいことと思うんですよ」

「あなただけの青春であつて、一生引きずっていく根本をつくったところかな。」

「青年団経験者は」町政に対して、自分の意見をきちんと言える人が多いと思います。それが、まちづくりの良い影響を与えていると思います。町長などトップに立つ人に普通にものが言える、つてすばらしいことと思うんですよ」

「あなただけの青春であつて、一生引きずっていく根本をつくったところかな。」

「あなただけの青春であつて、一生引きずっていく根本をつくったところかな。」

3

昭和47（一九七二）年
始まる・団員パジャマ作成・移動町連
青年団の活動が徐々に停止する。

12

昭和48（一九七三）年
社会教育課長に転任後、町民センター
青年団の活動が徐々に停止する。

15

昭和49（一九七四）年
全町一区制について要求書提出→議決
青年団の活動が徐々に停止する。

32

昭和50（一九七五）年
ダム対策特別委員会設置（看板立
青年団の活動が徐々に停止する。

48

昭和51（一九七六）年
議会正常化についての懇談会主催
青年団の活動が徐々に停止する。

90

昭和52（一九七七）年
（町のドラゴンをテーマに）歴史研究会
青年団の活動が徐々に停止する。

127

昭和53（一九七八）年
ふるまの民謡と伝説資料作成
青年団の活動が徐々に停止する。

138

昭和54（一九七九）年
20周年記念行事
青年団の活動が徐々に停止する。

141

昭和57（一九八二）年
若菜節
青年団の活動が徐々に停止する。

15

昭和58（一九八三）年
青年の家撤去
青年団の活動が徐々に停止する。

17

昭和60（一九八五）年
この頃、野矢青年団・飯田青年団
の活動が徐々に停止する。

18

平成2（一九九〇）年
連合青年団結成30周年記念行事を
行う。この頃、野上青年団の活動
が停止する。

19

平成4（一九九二）年
青年の家撤去。野上地区を中心に
青年団の活動が徐々に停止する。

20

平成7（一九九五）年
九里町議選で候補者重慶の政策等
を掲載したチラシを作成。配布。
南山田・東飯田の単位青年団を解
消し、九里町連合青年団として発
平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

21

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

22

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

23

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

24

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

25

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

26

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

27

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

28

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

29

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

30

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

31

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

32

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

33

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

34

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

35

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

36

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

37

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

38

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

39

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

40

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

41

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

42

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

43

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

44

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

45

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

46

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

47

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

48

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

49

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

50

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

51

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

52

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

53

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

54

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

55

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

56

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

57

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

58

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

59

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

60

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

61

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

62

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

63

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

64

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

65

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

66

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

67

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

68

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

69

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

70

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

71

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

72

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

73

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

74

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

75

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

76

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

77

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

78

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

79

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

80

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

81

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

82

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

83

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

84

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

85

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

86

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

87

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

88

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

89

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

90

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

91

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

92

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

93

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

94

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

95

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

96

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

97

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

98

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

99

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

100

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

101

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

102

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

103

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

104

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

105

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

106

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

107

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

108

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

109

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

110

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

111

平成9（一九九七）年
この頃、連合青年団の活動が徐々に
に停止、現在に至る。

生き続ける青春

鷺頭洋子さん

栄治さん



「それは、もう未知の世界でした。今でも鮮明によみがえります」

鷺頭(旧姓・野木)洋子さん(無田中一)が大分県青年の翼事業でアメリカへ21日間の研修に行ったのが、21歳の頃。青年団の頃の思い出、というところまず思い浮かぶことです。この研修を含めた青年団活動は、その後の洋子さんの人生に大きな影響を与えています。

「アメリカを直に見たことで、小さなことを考えずに、大きいことに目を向けられるようになったと思います。それに飯田、九重で農業をやっていると、胸を張って白慢できるようなりました」

「アメリカと和牛の違いを見ていたので、輸入されても負けない、という安心感があるんです」と話すように、洋子さんがアメリカでホームステイしたのは28000エーカー(ヘーエーカーは40アール強)の土地に4千頭の牛を飼っている農家。当時、洋子さんには農業の経験はありませんでしたが、その後、の人生に大きな影響を与えるもの一つの出発点が訪れます。飯田

高原で農業を営む鷺頭栄治さんとの結婚です。青年団活動がきっかけでした。これを機に農業という未知の世界に飛び込んでいきます。「(栄治さんと)同級生というところもあるかもしれないけど、青年団で一緒だった、というのが大きいと思います。仕事上のパートナーというのかな。お互いに話し合いながら進めています」。同志、みたいなものですか、の問いかけに「そう、そう」と笑います。

その傍らで「半分後悔かな」と笑う栄治さん。もちろん冗談です。青年団の最大の収穫は洋子さんと話していただきました。

「自分たちの代表を町政へ」と選挙に打ち込んだり、夜遅くまで議論したりの日々でした。「青年団で同じ時を過ごさし、同じような目標を持つことで価値観が合ってきたのかなあ」と洋子さん。

10代後半から20代にかけての価値観が固まってくる頃、同じ時・場所を過ごすことで、ある価値観をその後の人生に共有し続けることができるのかもしれない。鷺頭さん夫婦には「青年団」という時・場所でした。洋子さんはこう話します。

「ジャンルを越えた幅広い人と交流することで、前向きに取り組んでいく気持ちを育ててくれたのは青年団だと思う。それに人の前

に立って自分の思いを言うことも青年団で学びました。二人の気持ちの中に青年団の存在は大きく占めています。原点とも言えます。それに、主人の友だちは私の友だちでもあり、共通の話題がいつもあるのがいいですね」

栄治さんも「青年団で友だち関係ができて、地域活動や組織活動の基本的なものを身につけることができ、人の前でもものが言えるようになった。仕事上の人間関係、今で言うネットワークかな。これも至るところでできました。今でも顔を合わせれば「元気かえ？」と気軽に言い合えますね」と話します。

結婚当初は9頭だった和牛は、現在は97頭に。田んぼは2町だったものが8町へ。このほかにユリの栽培や最近ではブルーベリーにもチャレンジしています。今年4月には二人の長年の夢だった直販所が実現。



▲アメリカでの研修写真から(S48)



アメリカの研修時

1973



そして今、夢を追い続ける。

2003

うかな。横のつながりをもってほしいと思いますね」

青年団がきっかけで未知の世界・農業に飛び込んだ洋子さん。挑戦の日々は今も続いています。農業とは、の質問に、しばらく考えて洋子さんは一言、こう答えました。「夢」

夢とは追い続けるもの。それを支え続けているのが「青年団」。洋子さんにとつての青年団とは「今の自分がある支え」。

栄治さんは「青春」と答えます。鷺頭さん夫婦の中に今も生き続ける青春。それを支えに夢を追い続けています。

全町一区域

昭和30年の九重町青年以、町議選で再任とられていたのが地区別方式。旧4町村ごとに定数を決め、その議席を選挙で争うものですが、徐々に旧4町村に有利な投票行動や地区の特性が顕著になり、町議選で定数が出なくなる等も目立つようになってきました。また、地区別方式が廃止し、全町一区域にしてこの方式を廃止し、昭和41年(1966年)青年団は、この問題に10年近く取り組んでおり、実現への大きな力になったと考えられています。

青年団は宝物

江藤 一幸さん



▲結成20周年記念(S54)の寄せ書きから、当時24歳

江藤一幸さん(麻生釣)が青年団に所属していたのが20歳から30歳までの約10年間。この間に連合青年団長を始め、県の団長も務めています。一番印象的な出来事を聞いてみると、即座に返ってきた答が「わらび座公演」。昭和54年のことです。山田洋次監督の映画に同席(はらから)という作品があります。これは、雪深い寒村の青年団が劇団公演を誘致、大成功までを描いたものです。「もし赤字を出したら車を売る。だから公演をしたい」。そんな青年たちの公演、そして自分たちの住む村への思いが伝わってくる作品です。



と、売れるもんじゃないうね(笑)。だから必死だった」

することが決まったものの、当時14、5人の青年団の前に莫大な経費が重くのしかかっています。しかもチケット一枚が二千元、今よりもずっと高額のものに感じていたはずでした。

この重圧をはねのけたのが、団員たちの情熱。まず始めたのが、当時あった有線放送の電話帳を見て一軒一軒売って回ることに。コンパネ8枚を使った大看板も作成。当日のパンフレットに掲載する広告取りにも駆け回りました。結果取れた広告が二百件。後日、劇団員の人がこんなに広告を取ったところはない、と驚いたほど。がむしろらの日々が過ぎ、あつという間に当日。なんと南山田中学校体育館がいっぱいに、七百人のお客さんが集まりました。これも映画の同席と全く一緒。

「今考えると、感動ものですね。このことで有言実行と言うのかな、無謀だったかもしれないけど、若さゆえの正義感を発揮して、はじめから出来ないと思わせずに、みんなで力を合わせればなんでも出来るっていうのかな。それを学びました」

池に石を投げ込んだとき、波紋が広がるように、青年団が地域での石のような役割を果たしていたと江藤さんは振り返ります。その

象徴がわらび座公演というわけですね。

「青年団は学校を出た後の社会の学校だったと思う。同じ世代どうし、教え、高めあいながら問題にぶつかっていくというのかな。青年団というのは自治集団だったと思うんですよ。今、この自治というのがまちづくりに求められています。そのヒントが青年団にあるのかもしれない」

青年団を通じて仲間作りもその後の江藤さんに大きな影響を与えています。

青年団退団後、江藤さんは農業問題を中心にフォーラムを主催、国内外を問わない交流の輪を広げていきます。高校時代は内気だったという江藤さん。それを変えてくれたのが青年団。交流の大切さを教えてくれたのも青年団。そして公民館の存在が大きかったと振り返ります。

「みんな良く公民館に集まって話をしよつたんですよ。雨の日とかに、ぶらつと立ち寄ると必ず誰かいました。そこから何か生まれていきました。地域のこと、俺たちがやっていたいかなければ、という気概がそこにはあったと思うよ」

今の若者へは、「自分たちは青年団を通じて交流の輪を広げてきた。今の若い人は、車も持っているし、インターネットもある。こういういたものを使い交流の輪を広げる。ただ手段が違うだけ。根本は変わらないと思う。この手段を有効に使い、自分を高めてほしい」

と話します。

江藤さんたちも団員数の減少で悩んできました。団員を増やすため、あの手この手を考えますが、決めた手に欠け、するすると減っていきまます。今、この、するする感にみんな苦しめられています。「何をしても変わらない。するだけ損」。どことなくそんな声が開いてきそうです。何かをやらうとしても人が集まらない時代になっています。「しらけた社会というのかな。そう言ったのを作ってきた自分たちに責任があると思う。社会の意識が変わってきて、青年団もなくなつたし、婦人会も少なくなつていく」

では、自分たちに今できることは何か。親の世代が自分なりのレベルで自信を持って背中を見せることだ、と江藤さんは言います。その上で、「あとは若者に判断してもらえないんじゃないかな。背中から何かを感得してくれるまで、待つ」

最後に江藤さんにとって青年団とは、「宝物、青年団があるから今の自分がいる」そして、「ニコッと笑いこころ続けた。生まれ変わったらまた青年団に入りた」。



青年団の反対運動



青年団の反対運動を伝える毎日新聞(S56.12.2)

将来の水害に備え治水対策として建設された治水工事による青年団の建設計画が治水に及ぼす影響を調査。その後治水対策だけでなく、農業用水として治水計画が打ち出さる。多田田ダム化。この頃から建設反対の動きが盛んになってきた。

青年団は昭和47年頃からの問題を取り組み、街への公開質問状の提出や新聞や地誌などを研究してプロジェクト活動を開始。30歳以下の討論会や学芸会などを中心とした活動。その上で、「九野原付近の自然を破壊し、下流域の生活用水・農業用水まで影響を及ぼす」とし、青年団は建設反対の姿勢をとりました。青年団は昭和52年に建設中止を決定しました。

演劇活動
青年団は、自分たちの生活や社会問題について、演劇を通じて表現し、社会への訴えを込めていました。青年団は、演劇を通じて、自分たちの生活や社会問題について、表現し、社会への訴えを込めていました。



青年団は、自分たちの生活や社会問題について、演劇を通じて表現し、社会への訴えを込めていました。青年団は、演劇を通じて、自分たちの生活や社会問題について、表現し、社会への訴えを込めていました。

まだ終わってはいない

阿部征則さん



▲阿部さんが団長時代の定期大会資料「やっぱり捨てられないんよね(笑)」

「どっかに自分が青年団をつぶしてしまっただんじやないかという気持ちがあるんよ」

阿部征則さん(下見4)がふとつぶやきます。

阿部さんが青年団に入ったのが、引歳の頃。昭和60年のことです。「あの頃は、いろいろな団体があつたけど、青年団は一目置かれていた」というようにかつての青年団の気風が残っていました。一番印象に残る出来事もその頃に体験します。

「ピースハイクという平和を訴えながら歩く行事があつてね。一緒に参加した人や先輩達からいろいろな話を聞いたんよ。その時、どういふことを目指すのが青年団か、というのを教えてもらったと思う。平和とか、そう言う問題。社会問題に対して、青年団を通じて学ぶことの大切さもそのひとつね」

以後、阿部さんは青年団活動に没頭していきます。団長などの役職も経験します。

しかし、青年団が活動しやすい

環境とは言えない時代へ変わって

地域から若者が次々に減り、「団体よりも個人の行動の方が束縛されずに自由」という志向も広がっていきます。青年団自体が若い人から何となく敬遠されるような存在になっていました。町内の単位青年団が消えていくのを直に見ていきます。日々の仕事に追われ、集まる人数も少なくなりがち。そんな中、阿部さんは、「それまでの考え方」と「新しい考え方」の板挟みになっていきます。

「自分の言いたいことをワイワイと、時にはけん力をしながら話す。自分の思い」がなかなか伝えられずに涙を浮かべて熱弁する。それが青年団の一番の姿だと思ふんよ。しかし、若い人の中で自分の意見をあまり言わず、被風たてない風潮が強くなっていった頃で、こちらも気兼ねして強く言えなかつたのも思ふたなあ、と思う。それにひとつの行事をするにしても、「やろうやあ、やろうやあ」と言

つても目的や感銘みたいなものを共有できる取り組み。それができなかった。空回りやそうそう。そんな感じだった(笑)。

団員がひとつになる行事を組めなかつたことも反省材料と話し

しかし、「イヤなことあったかもしれないけど、楽しかったことかと思ひ出せない」と話します。青年団活動をしたことが、その後の阿部さんに大きな財産を残しています。

「PTAや青壮年でもそうだけど、会議の進め方や組織の作り方を教えてもらった。それに先輩・後輩のつながりができ、極端な話、困ったときも助けてもらえるような。そんな関係ができたと思います。先輩たちは良く、人生の肥やし」と言っていたんだけど、仲間づくりとともに社会人として青年団に育ててもらったと思う。青年団が社会教育そのものだったと思うし、人前でものを言うことも多く経験させてもらった」

物事に対する姿勢、という面でも青年団で大いに学びました。

「例えば、去年、人権講座に参加したんだけど、そういった大切なことに対して逃げたくないんよ。やらなきゃならないという意識を青年団で持つことができた。社会を見ると、不満を持って投げやりな人が多いけど、青年団経験者は絶対に投げやりでないと思うよ。みんな物事に対して、真剣に、ひたむきに向かい合う。壁があつて

も、乗り越えようとする気持ちを持つている。例えば、会合にしても、声をかけられたら、忙しくても工面しようとするよね。役員をする人の気持ちがわかつていふところもあるだろうけど」

阿部さんの話す「青年団で学んだこと」。その価値は、変わるものではありませぬ。こう続けませぬ。

「町内一周駅伝の子ラシを見た人から「あんたたちは、この町が本当に好きなんだねえ」と言われたことがあるんよ。青年団と普通のサークルは仲間づくり、という面では同じだけど、青年団はいろいろな活動を通じて、自分の町を良くする、生活を守る、環境を守るのを目指していたと思う。そう言

つたことを引き継いでいくのは大切。ボランティアの意識を持ち、行動することの大切さを教えてもらったのも青年団だと思う。こういったのって、これからの地域に必要なと思うんだけど、青年団みたいなのが今はないよね……」

確かに自分が青年団をつぶしてしまっただんじやないかと考え込むことがあるんよ……」

まだ自分は青年団員だと笑う阿部さん。できれば、青年団として復活させたい、と仲間たちとよく話すそうです。

「まずは、人だから、後に続く人たちに青年団の大切さを伝えたいと思います」

青年団はまだ終わっていない。復活のチャンスが来るのを待っています。

青年の森



自治体と協力して自然を育て、受け、スギ、ヒノキなどを植え、そこから収入の一部を福祉活動にしようとする。植栽・下刈りなどをするごとに団員同士の間隔を作ることも始めとされています。九重町では昭和60年から取り組まれており、現在でも、当時の西江田のみならず、より、手入れがされています。2ヘクタールの土地に植えられ、スギは20メートルほどに育っています。

成人フェスティバル

「思い出しに集る成人式(じょう)の主催のち、それまでの式場色の強いものから成人式が主体となつて、形式にとらわれない成人式を」と昭和47年から始められたちの。成人式にこれからの人生をどう積極的に発表してもらうか、歌やフォークバンドを交えさせるものもあつた。また、屋外(高倉原)で実施された。同時に、シンポジウム的な話し合い形式の企画もあつていまして。



▲広報ここのえ(57-48年)の記事から

かつて、地区公民館を中心にまちづくりが活発に話されていた時期がありました。そこには青年団や婦人会など、世代を越えた人たちが集っていました。九重町のまちづくりの元をたどると、ここに行き着くと多くの人が指摘します。しかし、時が経つにつれ、話し合いでぶつかることをさける風潮が強まってきました。地区公民館を覆っていた熱気も徐々にさめていきます。お互いに干渉しないのがスマートな生き方とされるようになってきました。青年団もなくなりました。

最近、市町村合併に向けた議論が盛んに行われていますが、町の規模が大きくなるからこそ、地域の問題を、そこに住む住民同士が考え解決していく機能を持つことが必要とされています。自分の好きな町を自分たちで作っていくため、あの熱気を取り戻す時期が来たようです。

子どもを地域で育てる

南山田公民館では今でも、年に3〜4回、「ろばた懇談会」を開いています。正式には、一度は途絶えたものを「やはり、語り合う機会が必要だ」と復活させ、続けています。この懇談会では、その都度テーマを設定しており、これまで「婦人会の存続」や「こみ問題」「青少年犯罪」「学校週5日制と地域のかかわり」について話してきました。また、話し合いで終わらせるだけでなく、町への提言なども行ってきました。

最近行われた7月23日と10月14日、2回のろばた懇談会のテーマ



「低年齢の犯罪が起る原因を探る」。PTAの代表や学校の先生も参加、子育てにつ

あの熱気をもう一度

～南山田公民館で続く「ろばた懇談会」



いて話し合いました。

子どもを育てる環境は、確かに悪くなっているようです。しかし、その原因・解決策を探るとなるとなかなか答が出てきません。自分たちが子どもだった頃を思い浮かべながら、今の子どもを取り巻く環境とどう違うのか、話し合いが続きます。例えば、「昔は3世代同居の家が多く、子どもの頃から生老病死に関わる体験をすることで、命の尊厳が自然に心にしみついてきたが、今の子どもたちは、その機会がほとんどない。このことが命を軽く見てしまうのではないかと思う。そういう意味では今の子どもたちは不幸だ」といった意見が出ます。しかし、単に昔が良かった、社会が悪いでは、何の解決にもつながりません。どこが悪いではなく、家庭・学校・地域などが、あるべき姿からずれたことが重なり、子ども達の問題を生んでいるのかもしれない。

「子ども達が大変な時期にあるんだ」という認識を、親を含めた大人社会が持ち、真剣に取り組んでいかなければ」と、ろばた懇談会では、引き続き子どもの問題に取り組むことになりました。

「議論のすばらしさ」はきくと伝わる

ろばた懇談会では、かつての青



年団活動が話題に上ることが良くあります。この会に参加した人たちの多くが、かつて青年団活

動をしてきた人たちです。青年団では、政治・まちづくり・自分の夢・恋愛、様々なことが熱く語られてきました。あの熱気というのは、これからは必要だし、失ってはならないものと、みなさんが考えます。「議論が下火になっていきます。それにつれ世の中が退化しているような気がします。議論あるところに進歩あります」と話す清川館長も連合青年団結成に関わった一人です。

館長の湯浅弘さん(桐木2)も、青春を青年団活動に傾けてきました。公民館にいた頃、自分の理想ばかりが先に立ち、空回りすることもありました。そんなとき、次のようなことを言われたそうです。「100人呼びかけたら100人とか50人に来てもらう、100分の100や1000分の50の取り組みでなく、たとえ3人しか来なくても、100分の3の取り組みでも話を聞いてもらえたら成功したと思わなければならない。何人集まらなければならないということはない。点を線にし、線を目にする取り組みをしていけばいい」

湯浅さんは、この言葉どおり、地道なが



らも着実な行動を続けてきました。「人と人とを結びつける役割を持つ人の重要さも経験します。青

年団にも、その時々々の問題をわかりやすく解説し、議論に導くような人がいたそうです。「この人なら青年・壮年たちに話せば役に立つぞ」と言う人を探さなければならぬ、自分たちもそんな存在にならなければならぬ」という湯浅さんの発言に参加者は頷いていました。

しかし、この懇談会に限らず、地域の問題などについて話し合う場への若い人の参加が少なく、「どういったことを考えているのか、話をしたいけど、その機会さえない」のが実状です。なぜ、若い人の参加が少ないのか、いくつかの原因が指摘されましたが、その一方でこんな発言もありました。「若い人は決して議論しないわけではない。意外としつかりした考えを持っている。ただ、こういった場に来るのがめんどうなだけ一度参加すると、議論することの楽しさ、すばらしさが伝わるはず。昔も、今も若い人の情熱はそんなに変わらな

いと思います。だからここで、この懇談会にも若い人にもどんどん参加してほしいです。



1979年のタイムカプセル

九重町連合青年団は昭和54（1979）年、創立20周年を迎え、記念事業を行っています。式典や講演会・演劇祭などが行われましたが、タイムカプセルを埋める企画も準備されていましたが、諸般の事情によりその企画は実現しませんでした。今でもその時に埋められる予定だったものが残されています。

内容は、当時の青年団の姿がおさめられた8ミリフィルム（約120分）・寄せ書き・写真・大会資料など。

寄せ書きは、20周年記念タオルに単位青年団ごとに合計7枚。当時の団員達の声がかかれています。見ると、「いつまでも青春、どこまでも青春、われら今いい青年」と言ったものから10年後、20年後の自分の姿を想像したもの、愛車自慢などもありました。



◀24年前の青春がここに



▲記念碑も建てられました。足立文化会館跡地に今でも建てられています。



青年団活動が残したものの

嶋田裕雄



*嶋田裕雄さんは公民館や社会教育業務に関わりながら、「団員達の良き相談相手」として青年団を支えてきました。今回の特集にあたり、原稿を執筆していただきました。

は疑いがない。青年団の中から町長候補を出して選挙運動、そしてやがて全町一区制の運動へ。更にそれから町政学習会、議会傍聴記の作成配布、むしろ旗を立ててメーデー参加から仲間結成、高田力哉丞伯（後に九重町名誉町民）の九重油絵展展覧会、これは玖珠郡での本格的絵画展第一号であると思う。一見白茶蒸菜。ただ、どれも手抜きのないしら高制。それなりに学習を積んで実践し、再び学習を重ねては活動を続けた。

「若いもんの癖ひ上がり、足が地についたらん」と、当時の大人たちからよく言われた。しかし私は思っていた。若いもんだからこそ、飛ひ上がるだけの躍動力と、着地の際の柔軟性があるのだ。これこそ青年特有のものである。足が地についでいないと言っている。今は足だけなく、腰から尻までへたり地についてへたりこんでいる若いもんをよく目にする。

当時の青年たちの行動は、正に、「精

今、我が町に、青年団なる団体は存在していない。さびしい。それはかつてはない。世間一般、青年、そのものの存在すら影が薄いかかつているように思えてならない。いよいよさびしい。

「青」は東方の色であり、春の色であり、草木生茂の色である。そしてそれは、未熟の色でもある。ところが昨今、たんに年齢ばかりは若く、それでいて妙にひねり老成した、未成熟な若年層の連中を見掛けることが多い。てなけわは又、成長点を摘み取られた桶物のように、幼いままに干からびかかっている。委にませた保身園児やたから目につく、かくはると、青年団活動発せりしあの頃の「青年」たちのことか、しきりに思い出される。

祭りの芝居の勧進元を勤め、やがて自ら伝説の脚本を作り配役を決めて上演。これが後の青年演劇へ、更に現在の町民演劇「星生山の星太郎」を産み出した、見えざる核をなしていること



▲足立文化会館事務室にて



▲湯布院青年の家での研修で団員と(S49) 後列右はしが嶋田さん

突猛進であった。しかしそれは、彼等がりの学習の結果定めた、彼等がりの目標に向かつての「精進」であり「猛進」であった。そして彼等には、それを可能にし得るだけの体力と気力と知力があり、それを枯渇させないための不眠の学習活動―それは実学―があった。

現在、彼等が、地域の先達、中堅と分り、政治に、行政に、農畜産に、商業に、あるいは自然保護、演劇等々に、それぞれで、それぞれを、それぞれに精一杯そそこんでいる。これこそが、正に、かつての青年団運動の残した最大の贈り物である。と私は強く信じ、固く思い込んでいる。しかも、当の本人たちにはその自覚が足りない。それが又素晴らしい。その白無体が美しい。これも青年団運動の残したものである。

私事であるが、私は彼等から案に多くの、大きな恩恵を受け、育ててもらったと思っている。炭焼き、馬車引き、木伐りなど、今では望むべくもない体験をさせてくれたのも彼等である。多

幸せな暮らしは、 家族みんなの 健康があってこそ！

家族で健康会議を
開こう



★ 病気から家族を守る ★

家族みんなの健康状態について、家族全員が知っていますか。自分自身の健康と家族の健康には深いつながりがあります。

がん・心臓病・脳卒中・糖尿病などの病気（生活習慣病）の原因には、体質（遺伝）的な素因に、子どものころからの生活習慣がかかわっていることがわかっています。体質的な素因は、持って生まれたものですから変えることはできませんが、生活習慣は発想の転換や工夫によって、変えることができます。元気に長生きするためには、まず、自分や家族が家系的にどんな体質的な素因を持っているかを知ること。そして、とくに体質的な素因を持っている病気について、悪化させやすい生活習慣を改善し、発症を予防する健康習慣に変えていくことが大切です。

★ 家族みんなで、健康診査受診 希望調査用紙を記入しよう ★

全世界に「平成16年度健康診査受診希望について」調査用紙を、区長さんを通じてお配りしています（2月17日発送）。この調査用紙を記入しながら、家族で健康受診状況や健康状態を確認し合しましょう。

家族みんなで 健康診断を うけよう！

町の総合健診の流れ



▲健診結果説明会では、食生活のヒントコーナーを開設しています。みそ汁の塩分測定やうす味みそ汁の試飲ができます。

ここから スタート

受診希望調査用紙を提出

- ①『平成16年度健康診査受診希望について』に必要事項を記入し、3月22日までに区長または保健センターに提出ください。

受診票が
送付されます。

総合健診を受診

健診結果説明会に参加

- ①自分の検査結果を把握しましょう。
- ②自分の健康目標をたてましょう。

再スタート
新たな健康目標
にもチャレンジ
してみよう！

見直し

- ①健康目標を見直してみましよう。

実践

- ①健康目標について家族で共有しましょう。
- ②健康目標について楽しく実践してください。

地域みんな 健康づくり！

町が実施する健康診断の受診率等が優れた行政区を対象に『健康づくり優良地区』として毎年4月の区長会で表彰しています。



健康診断に関する申し込み・問い合わせ先は… 九重町保健センター
〒879-4803 九重町大字後野上17 TEL. 76-3838 FAX. 76-3836

朝鮮半島・台湾出身の旧日本軍軍人軍属等のご遺族の方への 弔慰金と重度戦傷病者の方への見舞金等について

総務省では、日本に永住している朝鮮半島・台湾出身者で、旧日本軍の軍人軍属等として戦死された方のご遺族や重度戦傷病者の方に対し、弔慰金や見舞金等を支給しています。

弔慰金等の請求期限は、平成16年3月31日までとなっています。

制度の詳細などについては、右のところへお問い合わせください。

なお、お心当たりの方への情報提供にもご協力をお願いします。

◆請求窓口・問い合わせ先

○九重町役場 保健福祉課 ふれあい福祉係 ☎76-3802

○総務省弔慰金等支給業務室 ☎03-3539-7830又は7831
〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-18-1虎ノ門第10森ビル

<http://www.soumu.go.jp/daijinkanbou/kanri/chou.html>

★解説

軍人軍属等とは ①陸軍の一等兵や海軍の水兵などの軍人 ②陸・海軍から給料を支給されていた工員、給員、運転手などの軍属 ③国民徴用令により徴用された方などをいいます。

公務傷病とは 戦闘中や作業中の負傷、在職中の病気などをいいます。

遺族とは 死亡者死亡当時の ①配偶者 ②子 ③父母 ④孫 ⑤祖父母 ⑥兄弟姉妹 ⑦死亡者と生計関係を有していた叔父叔母・甥・姪などの三親等内の親族をいいます。

重度戦傷病者とは ①片手の親指を失った方 ②片足の全ての指を失った方及び心身に①②の障害と同程度以上の障害を有する方をいいます。

◆対象者

特別永住者として日本に永住している朝鮮半島・台湾出身の方（帰化された方を含みます。）で次のいずれかに該当する方。

①先の大戦で旧日本軍の軍人・軍属などとして戦死された方のご遺族

②先の大戦で旧日本軍の軍人・軍属などとして公務傷病にかかり、これにより重度の障害の状態にある方（重度戦傷病者といいます。）

③平成13年3月31日以前に死亡された重度戦傷病者のご遺族

◆給付内容

戦没者の遺族	弔慰金（一時金）	260万
	本人 見舞金等（一時金）	400万
重度戦傷病者	遺族 弔慰金（一時金）	260万

◆請求期限 平成16年3月31日まで

（期限までに請求されないと弔慰金等が支給されません。）

児童手当の支払いについて

平成15年10月分～平成16年1月分の4ヵ月分をまとめて、受給者が指定した金融機関へ平成16年2月5日に振り込みましたので、ご確認ください。

倒れても、折れても…… ～コスモスの会大運動会

コスモスの集い大運動会が12月18日、九重文化センター体育館で行われました。

同会は、障害者の社会参加と地域の理解を進めるため、九重町身体障害者福祉協会が中心となり取り組んでいるもので、会の名前は倒れたり折れたりしても花を咲かせるコスモスにちなんで、これまで意見交換会やコスモスの植栽・花見などで交流を深めてきました。運動会は今回で3回目。

当日は民生委員やボランティアなどを加えた約60名が3チームに分かれ参加、10種目を楽しみました。どの種目も、障害のある人もない人も楽しめるように工夫されており、会場は笑いが絶えませんでした。コスモスの会代表の小山卓郎さん（中央1）は、「この会は重度の障害者が多く、あまり外出の機会がありません。こういった取り組みに参加することで、みんな楽しく笑うことができます。とてもいいことだし、社会参加という面でも大変効果的です。ボランティアや民生委員のみなさんに感謝します」。小山さんは、身体障害者福祉協会の会長も務めています。「身障



者同士の絆が深まった1年だった」と平成15年を振り返ったうえで、今後は（現在約500名の）会員数を増やし、障害者同士が絆を深めながら社会参加を進めていきたいと話していました。



コンピュータ授業(研究会)

「学力向上フロンティア・スクール」研究発表会2003（平成15）年11月27日

本校は昨年度から九重町より「基礎学力向上とコンピュータ活用の研究」の指定を受け、本年度から文部科学省の「学力向上フロンティア事業・学力向上フロンティア・スクール」の指定も併せて受け研究をすすめています。

その中で、昨年11月27日に公開研究発表会を行いました。当日は玖珠郡内外（杵築市・大野郡・佐伯市・日田市郡等）から約70名の参加がありました。

学年ごとに一時間の授業と本校独自に創設した「L〜エル〜時間」（放課後の時間25分を使った、自学自習の時間で英語、数学のドリルとコンピュータ利用による学習）の取り組みを公開しました。分科会や全体会では「学力をどうとらえるのか？～本当の学力とは？～」、「学力向上の姿はどうあればよいのか？」、「学力を向上させるためにはどのような取り組みをすればよいのか？」、「少人数指導（英語科の授

業でのクラスを二つのグループに分ける）の在り方は？」等の問題や各地域での研究や実践も発表されました。

本校では学力を「ヒト（動物的）が人（人間）として生きていくために必要な力」（広義の学力）ととらえると共にいわゆる「読み・書き・計算の力」（狭義の学力）も生徒にきちんとつけることを実践研究のねらいにしました。この方針を保護者や地域の方々にも啓発するために昨年8月には大阪教育大学副学長の長尾彰夫教授をお招きして、学力問題についての「教育フォーラム」(九重町役場301会議室)も開催しました。この会には玖珠郡内外から約170名の参加者があり学力問題についての関心の高さが伺えました。

この研究をすすめる中で、本校の生徒たちの学力向上の具体的な形は現われていませんが学習に意欲的に取り組む生徒が増えてきていることはまちがいないと思います。



教育フォーラム

ぼくたち、わたしたちも火のようじん



南山田地区の明倫幼稚園・木の実保育園の子どもたちによるかわいい防火ポスターがちょっとした話題になっています。これは、地元消防団の「ポスターを描いてみませんか」の呼びかけに応じ昨年11月末製作、南山田中学校前の消防団詰所に掲示しました。子どもたちが日ごろの生活の中から感じたことを描いたもので、消防士や消防車の絵には「まっちやらいたーをぜったいにつかいません」といったメッセージも。「お話を聞いたりするだけでなく、防火の話をしながら自分たちで描くことでいい意識付けが出来ました」と園では話していました。

今日は、ちょっぴりサンタさん ~ほのほの音楽隊

病院や施設などでクリスマスを迎える人たちに歌のプレゼントをと、「ほのほの音楽隊」が12月23日、郡内一円で行われました。これは、ハンディを持つ人たちがボランティアを受けるだけでなく、逆に提供できることもあるのではという思いで始められたもので、玆珠では4回目になります。ハンディを持つ人だけでなく、考え方に共鳴した子どもから大人までが参加。年々その数が増えています。学校やクラスでハンドベル隊を組み、親子で参加する人もあり、総勢90人以上の音楽隊は、郡内の高齢者施設や病院など11カ所に「歌のプレゼント」を持って訪問しました。

かわいいサンタクロースたちに、入所（院）者のみなさんは「すごく上手。とっても元気になりました」と大喜びでした。



▲シルバーランド・メルヘンにて

図書館だより

先月号で、図書館ビデオの特集を組んで頂いたところ、「広報を見ただんですが…」という問い合わせや電話が次々と寄せられ、掲載されたビデオの貸出しが確実に増えました。改めて『広報ここのえ』の影響を思い知らされた気がします。そして、この図書館だよりのページも、たくさんの方に読まれているんだと思い、気合を入れなおしたところです。

早速、今月の「新着本」をどうぞ！

ほんの森
2月号

図書館開館時間
平日 10:00~18:00
土・日 9:00~17:00
月・祝 休み

新着本

ブレイド・レッスン
アメリカインディアンの教え シリーズ3冊
ぶどうの木
昨年2時間ドラマとして放送されました。
結婚の条件
葉桜の季節に君を想うということ
2003年『このミステリーがすごい!』1位。
市町村合併の決断
私たちの決断は?
シンセミア 上・下
34丁目の奇跡
月の見える窓
日本人はなぜいつも「申し訳ない」と思うのか
ターフの女王 -最強牝馬コレクション-
龍のすむ家
龍時 -01-02-
タオ -老子-
異色歴史短篇傑作大全
ベトナムで生きてみた
ニシノユキヒコとの恋と冒険
風が見ていた 上・下
ゲームの名は誘拐
映画『g@me』の原作本です。
ハダカのコタキスト

いとうひろかず
加藤節三
坂本洋子
小倉千加子
歌野晶午
小西砂千夫
阿部和重
ヴァレンタイン・デイヴィス
新野剛志
長野晃子
武 豊
クリス・ダレーシー
野沢 尚
加島祥造
渡辺淳一 (他)
堀添勝身
川上弘美
岸 恵子
東野圭吾
一鳥さゆり

カルピス・アルピス
藍色のアドベンチャー 上
青山一髪 上・下
ご出産 (まるごと体験コミック)
こんな夜更けにバナナかよ
第25回『講談社ノンフィクション賞』受賞作。
風のまつり
時代を生きる賛歌・考 -諷刺・笑い・色気-
子どもは判ってくれない
青春の文語体
幕末御用達
書店のイチャ押し! 海外ミステリ特撰100
いい家が欲しい。新装第5版
一冊でわかる歌舞伎名作ガイド50選
おいしい洋酒の事典
女性のからだの整体法
京都のスメ
九州・鉄道の旅 カラー版
こげばん沖縄ぶらり旅日記
午後のロマネスク
こどもと行くスキーガイド 2004
スキーレッスンも掲載しているので、スキーを教えたい大人にオススメ!
豆・栗・かぼちゃ・手のお菓子と料理
いまいましい石
村上春樹が翻訳しています。SF小説のような不思議な絵本。

微本野ばら
幸田真音
陳 舜臣
堀内三佳 (他)
渡辺一史
椎名 誠
有馬 殿
内田 樹
安野光雅
津本 陽
ジム・ファン
松井修三
成美堂出版編集部
野村泰央
仲村清司
栗原隆司
たかはしみき
小池真理子
クリス・ヴァン・オールズバーグ

県民の声を知事自らが聞き、県政に反映しようと、「県政ふれあいトーク」が11月11日、九重町で行われました。

この日まず広瀬知事が訪れたのが、ふるさと館。農産物の出荷に訪れた生産者数名と懇談しました。その後、会場を九重文化センターに移し、農業生産者20名と約1時間懇談。最初は初対面のためか、なかなか話が出ませんでした。知事の穏やかな人柄に徐々に緊張もとけ、様々な話が出るように、

県の農業ビジョンを聞かせてほしい、という話から、地産地消の難しさ、残留農薬のチェック機関を設けることの大切さなど農林業の抱える課題、「今の時期のトマトが一番おいしいので、ぜひ買ってほしい」という声も聞かれました。

参加者からは知事について、「住民の声を直に聞くという姿勢がうれしいです。とても親しみやすい感じで話しやすかったです」と好印象の声が次々に聞かれました。

知事は、「(九重町は)こんなにもたくさんのことをしているのか、と驚きました。今日は率直な話を聞いて良かったです。しっかりと県政に活かしたいと思います。これからも何かあったら、気軽に県庁に寄ってほしいと思いますし、私も何回も来ますよ、また来たかと言われるくらい(笑)」。



◀「今日の服装は親しみやすい感じをと考えました」と広瀬知事。なかなかおしゃれてした。

また来ますよ

～県政ふれあいトークで広瀬知事が来町



すっきりときれいな九重を

九重町の紹介ビデオが完成

九重町の四季の美しさやそこに暮らす人々・イベントなどを紹介したビデオが完成しました。

これはOBSテレビで製作、11月22日に放映された「ぐるり二豊路～大自然と人と」をもとに作成したもので、時間は約30分。すっきりと美しい自然や魅力的な人々を見るに付け、あらためて九重町の底力を感じるものになっています。

ビデオ製作を担当したOBSメディア21の安部和彦さんは「(このビデオに出た4人と会って)みなさん九重町が本当に好きなんだなーと感じました。まちづくりが、行政レベルでなく、住民が、身近なところから無理せずに取り組んでいると思いました」。出すものが多く、選ぶのに苦労したそうです。

このビデオは貸し出しができます(VHSまたはDVD)
お問い合わせは役場企画調整課(76-3807)まで。



▲VHSビデオが10本、DVDが1本

ハンセン病について正しく理解し、患者・元患者のみなさんに対する偏見や差別をなくしましょう！

私たち一人ひとりが、ハンセン病についての正しい知識と理解を持つことが、これまで長く続いてきた偏見や差別を解消するための第一歩です。

1. ハンセン病は治る病気です

ハンセン病のかつての病名は「らい」でした。しかし、長い間人々が「らい」に対して抱いてきた偏見や差別を解消し、正しい認識をもってほしいという願いから、らい菌の発見者であるノルウェーの医学者ハンセン博士の名をとってハンセン病と改められました。

- ◎ 伝染力の極めて弱い病原菌による感染症です。
- ◎ 遺伝病ではありません。
- ◎ 万一感染しても、ほとんど発病の危険性はありません。
- ◎ 菌は治療により数日で伝染性を失い、軽快した患者と接触しても感染することはありません。
- ◎ 元患者から感染することはありません。
- ◎ 不治の病気ではなく、完治する病気です。
- ◎ 早期に治療すれば、身体に障害が残ることはありません。

2. どんな治療法があるか、ごぞんじですか？

治療法として、プロミンによる単剤治療が行われ、1943年画期的な成功が報告されました。現在では、リファンピシンなどの多剤併用療法を適切に用いることにより、障害を残すことなく、外来治療によって完治する病気となりました。

3. ハンセン病療養所の現状について

我が国では、平成15年10月末現在、13か所の国立ハンセン病療養所及び2か所の私立療養所において3,622人の方が入所療養しています。ほとんどの入所者がハンセン病自体は治癒していますが、高齢であること、ハンセン病による後遺症としての障害を持っていること、社会生活体験をほとんど有していないことなどのために、地域社会への復帰が困難となっています。また、わが国の社会に残っている偏見や差別は、地域社会への復帰や地域の人々との交流を妨げる原因となっています。

(以上の記述は財団法人藤楓協会発行「平成15年度藤楓だより」を参考にしました)

ハンセン病患者・元患者のみなさんに関する人権問題について、私たち一人ひとりが、自らの問題として理解を深め、基本的人権が尊重される、偏見や差別のない社会を実現しましょう！

大分地方法務局日田支局
日田人権擁護委員協議会

お知らせ

環境

霊柩車使用料助成の廃止について

九重町霊柩車の廃止に伴って平成13年度から3カ年の期間を限定し、町民の葬儀に関して霊柩車使用料の助成を行っていますが、平成15年度(平成16年3月末)をもってこの助成を廃止します。

年末年始休業日

12月31日(水)から1月5日(月)までは年末年始の休業日とします。

なお、12月27日(土)は、営業します。

(株) 玖珠環境センター

(有) 玖珠環境衛生社

みなさん、燃料の購入と言えば、普段は、車にガソリン又は軽油を給油することを思い浮かべますが、これからの時季、寒くなると暖房器具を使用する機会が多くなり、最近では自分で灯油を買いに行かれる方も増えてきているようです。

ここで、気をつけなければならないことは、油種を間違えないようにすること、自分が何を購入するかをはっきりと店員に伝えることが必要です。

また、燃料を入れる容器については法律で認定された専用の容器にしか小売りできないように定められています。

容器は日用品店などで販売されていますが、自分が購入する燃料の種類に合った適切なものを選びましょう。たまに灯油用のポリ容器にガソリンを購入している方がいますが、これは法律に違反しているだけでなく非常に危険なことです。

ガソリンを少量購入する場合は、必ず携行缶(スチール製)容器を用いて購入しましょう。



図書館だより

ほんの森
12月号

《年末年始の閉館日》
12月27日(土)から
1月5日(月)まで
お休みします。
ご了承ください。

図書館開館時間
平日 10:00~18:00
土・日 9:00~17:00
月・祝 休み

早いもので今年も残りわずか…。突然ですが、質問です。

Q. 残り1枚になったカレンダーを見てあなたは？

1. いよいよ今年も終わるなあ、しみじみ1年を振り返った。
2. 年賀状を書かないと間に合わない！と慌てた。
3. 返却期限を過ぎた図書館の本を思い出し、今年中に返そうと思った。

「3」と答えた方、ぜひそうして下さい！図書館の資料は町の財産です。返却期限が過ぎていて、なんとなく返し辛いと思っている方も、大掃除をしてみつけたという方も、今年うちに返却して、気持ちよい新年を迎えましょう！！ 年末年始の閉館日は上記の通りです。

新着本



『川の少年』

ティム・ボウラー／早川書房／(児童文学)

ジェスはおじいちゃんが大好きな15歳の少女。夏のある日、そのおじいちゃんが倒れた。最後の願いをかなえるため、家族はおじいちゃんを連れ、故郷の川へと向かう。この本は、1998年、イギリスで発表されたもっとも優秀な児童書に与えられる「カーネギー賞」を受賞しています。同年の候補作に「ハリーポッターと賢者の石」があり、それを押しよけての受賞でした。いつかは経験する「恋しみ」、それを乗り越えた後の「希望」。10代のうちにぜひ読んでもらいたい一冊です。



『博士の愛した数式』

小川洋子／新潮社／一般(小説)

10歳の息子を持つ家政婦の“私”が派遣されたのは、元数学者の老人の家。彼は過去の事故が原因で“記憶が80分しかもたない”。常に数式を考え、数学の美しさを語る博士と、その奇妙な時間を支える親子の間には、やがて優しく強い絆が生まれる。静かに流れていく日々を淡々と綴っていますが、読むものを切なくさせる大切な何かがこの本にはあります。約数、素数、完全数…数学のおもしろさにも注目。



『冬のソナタ 上・下巻』

キムフニ・ユンフンギョン／日本放送出版協会／一般(海外小説)

NK BS2で放送されていた韓国ドラマ「冬のソナタ」をご存知でしょうか？次々と展開していくストーリー、切ない初恋、過去と現在の想いに揺れるヒロイン…。韓国で若者を中心に圧倒的な支持を受けた話題作は、日本でも大ブレイクしました。何かとせちがらい世の中、純粋で切ないものにあこがれる気持ちに重宝はないようです。ドラマを見ました方には特にこの翻訳小説をおすすめします。

『となりの韓国人』

黒田福美／講談社／一般(エッセイ)

2002年FIFAワールドカップを機に、日韓新時代の流れが一気にやってきました。しかし…一ちょっとした違いが、「一緒に仕事をする」となると、大きなトラブルに繋がってゆくことも多い。何年経っても、日本人と韓国人はいつも「同じ事情」でつまづいている— 韓国と関わって20年の著者が語る、日韓の文化の違いとその傾向と対策。この本は、韓国人を理解するための「手引き」としても使える、おもしろくて時には考えさせられる中身の濃い一冊です。必要なのは文化の通訳！



『フルエル心ノケータイ短歌』

ふかわりょう+加藤千恵・編／中央公論新社／中学生～今や小学生も持つようになった携帯電話やパソコン。進化し続ける情報機器とそれらを難なく使いこなす若者達を見て、素朴な時代を懐かしむ方も多いのでは。しかしこんな時代でも、変わらないものもあります。NHKのラジオ・テレビで携帯メール、PCメールを使っていた「短歌」を募集したところ、たくさん投稿が。一思い出はカルピスみたい薄まったくてもまだ少しだけ甘酸っぱい—(22歳 男性) 日本独自の感情表現はまだまが健在です。あなたも31文字に想いを込めてみませんか。



新着本 続々

デルトラ・クエスト 1~8巻	エミリー・ロッタ
デルトラ・クエスト2 1~2巻	エミリー・ロッタ
一緒にいるのが楽しい人・気後れする人	フォスター敬子
ひきこもる若者たち	町沢静夫
二人が睦まじくいるためには	吉野 弘
光ってみえるもの、あれば	川上弘美
トゲトゲの気持	阿川佐和子
巨頭会談	ビートたけ(他)

歌舞伎と友だちに



11月18日、九重文化センターで「かぶきはともだち」が行われました。直に見る機会の少ない歌舞伎を通じて古典の世界に想い込んでもらおうと企画されたもので、当日は191名の観客が訪れました。「今年は歌舞伎が生まれて400年。元々庶民のものだったので、堅苦しく考えず見てほしい」という舞台は3部構成。まず、歌舞伎の世界を知ってもらおうと、舞台上に楽屋を再現。化粧法の紹介や衣装の付け方などがわかりやすく紹介されました。観客の一人をステージに上げ、衣装を身につけてもらう試みも。舞台上上がったのは河野ちえ子さん(下尾本 写真左)。感想は「とても重い上に締め付けられて大変でした。とてもいい経験ができました」。

第2部では「助六」第3部では「あんまと泥棒」が上演されました。観客の一人は「動作のひとつひとつがキリッとしていて、とてもきれいでした。いいものを見せてもらいました」と満足の様子でした。



本校では、「職場体験学習」に取り組んで3年目になります。そのねらいの一つは、地域にある職場（事業所）で大人と一緒に同じ仕事を体験しながら、自分のこれからの進路を考えさせることにあります。生徒はあらかじめやりたい仕事を希望し、それに基づいて職場を選びます。今年は18の事業所が受け入れてくれることになりました。ねらいの二つ目は、働く事の楽しさ、喜び、苦しさ、しんどさなどを実感して体験させ、結果はどうあれ一日をやり遂げたという成就感を味わわせたいということです。今の大多数の子どもたちは、豊かな社会の中で「働く」という事から疎外されているのが現状です。生徒はわずか一日という短い体験時間ですが、毎年、何かを感じとって自分の進路選択に活かしているようです。

今年は、保育園・幼稚園をはじめ旅館・介護施設・造園業・製造業など地域の様々な職種の18の事業所のあたたかいご協力・ご援助をいただき11月14日、「職場体験学習」に3年生48名が取り組むことができました。今はまだ、事前・事

後の準備や指導に教師が走り回っているのが現状ですが、将来的には、生徒の手で取組みができるようにしなければならぬし、「美味しいところ」だけ生徒が享受するようなことがないように企画・運営していかねばと考えているところです。

以下、参加した生徒の感想を載せますが、生徒がどんな事を感じ、どんな事を学んだかお汲み取りいただけたらと思います。最後になりましたが、この場をお借りし、快く学習の場を提供くださいました事業所の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

今日の職場体験、すごく疲れちゃいました。おそろべし園児！って感じでした。私は「さくら組（3～5歳児）」を担当させてもらいました。朝から元気の子どもたちで同級生の光君も私も午前中でたくさんでした。さくら組は明日ある消防フェアに出るので、その踊りの練習をしました。人数の関係で3歳児が5～6人いるさくら組ですが、3歳の子どももちゃんと踊りについてきていることにびっくりしました。えらいなあと思いました。時間が経つと15、6人いるさくら組のみんなの名前を何とか覚えることができました。さくら組には11月から入園してきた双子ちゃんがあります。その二人もちゃんと踊りについてきていました。男の子も、女の子もみんなピュアでかわいくてたまりませんでした。私は一日の体験でとても疲れましたが、この仕事を続けている先生たちはパワーがあるなあと思いました。私は、今回の職場体験で、保育士という仕事にとっても魅力を感じました。将来の仕事を決める上で、大変参考になりました。（3年 古光理沙）



同級生っていいものだ

「誰もが母校のことを思っています。母校の良さを忘れないでほしい……」

野上中学校昭和33年度卒業生が選歴を迎え同級会を開催、その際に集めた会費の一部を母校に寄付しました。

この年の卒業生は151名。そのうち68名が11月8・9日に行われた同級会に参加。44年ぶりに郷土の土を踏んだ人も。「なるべく経費を節約して、寄付にあてました」という同級会、在校当時の先生を呼んでの授業、タイムカプセルの埋設などを行いました。式典の後の懇親会では赤いチョッキも登場。お互いの還暦を祝いました。

ところで、同級会というのは、数年に一度が一般的ですが、この年の卒業生は毎年。その秘訣は地元に残った同級生による頼母子講（月1回開催）にあるようです。このメンバーが同級会の役員を買って出ること、途切れることなく続いています。こんな声が聞かれました。「毎年会うのが楽しみで、

11月5日に代表のみなさんが野上中を訪れ、寄付をしました。



卒業写真を表紙にした同級会資料、全30ページのボリューム。

がんばろうと思いますよ。仕事の励みにもなります。普段でも、お互いに助け合うこともよくあります。まとまっているなあ、と思います。

今回の同級会資料の終わりにはこんなことが書かれていました。「友よ！またふるさとで会おう」

同級生っていいもんです。

お山の中に、たくさん動物や鳥たちが住んでいました。ぞうがいました。ライオンもトラもいました。きつねもたぬしも、みんないました。

ていくばかりです。大きな木がメラメラと燃えていくのです。からは、あいかわらず、川と山を行ったり来たりしています。その様子を見ていた動物や鳥たちが、からすに向かって言いました。「はかりやめる！おまえだけがそんなことをしたって、この大きな山火事が消えるものか！」

このお話は特別にお子さんに読んでもらいたいと思います。

山火事とからす

社会人権・同和教育指導員 高藤 英利

ある日のこと。この山が、とつぜん火事になったのです。風におおられて、松の木も杉の木もパチパチと音をたてて燃え上がりました。動物や鳥たちがおどろいて、われさきにと、みんな逃げていきましました。

「私はやめない。そりや、この私のちっぽけな力では、この火を消すことなど、とうていできないだろう。でも、私はやめられない！」

その時、一羽のからすが、いちもくさんに川へ飛んでいったかと思うと、ザブーンと水の中へ飛びこんで、今度はびしょびしょにぬれたままで、燃えている山へ飛んでかえつて、火の上から羽根をバタバタさせ、また、川へ飛んでいってザブーン。そして、山へ飛んでかえつてバタバタバタ。

「だって、そんなことしていたらおまえの命がないぞ！」
「それもわかってる。でも、私はやめられない。このお山のおかげで、かわいい子どもたちを育てさせてもらった。暑い夏は、このお山の木の陰で涼ませてもらった。寒い冬も、この木の上で眠らせてもらった。このお山のおかげで、私は生きてこられたのだ。そのお山が焼けていくのを、私は、じつと見てはおれないのだ！」

何のことかわかりますか？
そう。このからすは、自分の体に水をかぶり、それをひっかけて、火事を消そうとしているのですね。

そう言つて、からはまた、いちもくさんに川へ飛んでいくのでした。

でも、山火事は、大きく大きく広がっ

みなさんは、このからすのことをどう思いますか？
(子どもたちへの法話・雑賢正寛著)

＝平成16年2月・3月休日当番＝

病 院	月	日	医療機関名	住 所	電 話
2月	22日	玖珠記念病院	塚 脇	72-1127	
	29日	井上 医 院	恵 良	76-2711	
		北山田クリニック	北山田	73-2030	
3月	7日	友成(産婦人科)医院	塚 脇	72-0330	
		武田 医 院	森	72-0170	
	14日	小 中 病 院	塚 脇	72-2167	
		飯田高原診療所	飯 田	79-2138	
	20日	後藤内科医院	昭和町	72-0676	
		矢原 医 院	野 上	77-6121	
	21日	高 田 病 院	春日町	72-2135	
28日	長内科小児科腎臓科医院	春日町	72-2143		
	麻生消化器科内科医院	山 田	72-7100		

歯 科 医 生	月	日	医療機関名	住 所	電 話
2月	22日	倉成 歯 科 医 院	玖珠町	72-0450	
	29日	酒井 歯 科 医 院	日田市	0973-23-6480	
	3月	7日	石松朗歯科医院	日田市	0973-24-3718
14日		村山 歯 科 医 院	日田市	0973-22-3303	
20日		是永 歯 科 医 院	玖珠町	72-1020	
21日		(日田)相良歯科医院	日田市	0973-24-0580	
28日		高田ビル歯科医院	日田市	0973-22-2317	

獣 医	月	日	獣医師名	電 話
2月	22日	3月 6日・14日・22日	佐藤 獣 医	77-6448
	21日・28日			
3月	7日・21日・28日	山本 獣 医	78-9101	
	2月 29日			
3月	13日・20日・27日	甲斐 獣 医	76-3324	

ス タ ン ド	月	日	店 名	月	日	店 名
2月	22日	河野石油	3月	14日	森石油	
	29日	自由営業		21日	自由営業	
	3月	7日		竹尾石油	28日	小幡石油

備考 大分県中西部農業共済組合 ☎3409
休日当番の電話番号(携帯)は 090-5721-8191

★都合で変更する場合があります 玖珠消防署：● 救急は119番 ☎72-2141 ● 火災の確認は ☎72-5100

歳時記

季題

3月号

「芽(草や木の)」

「うぐいす」「水温む」

(2月25日締切)

4月号

「桜(花)」「霞(かすみ)」

「卒業または入学」

(3月25日締切)

今月の季題

「梅」「春浅し」

「下萌」

フィアンセの二人の笑みに梅香る

まだまだと人生古希の春浅し

お目出度い話ちらほら下萌ゆる

バラソルのように咲いてる枝垂れ梅

梅咲きて詩吟の稽古声澄みて

きびしさの日々を残して梅二月

風の音また追っかけて梅香る

石牛の迎えてくれる梅の宮

幼子のにぎにぎ上手春浅し

絵馬結ぶ少年の指春浅し

春浅し陽の目拌まぬ家の裏

春浅し水につかりてハヤを釣る

せせらぎの水音細き春浅し

下萌や久方ぶりのウォーキング

病む妻のメモで買い物春浅し

「フィアンセの二人の笑みに梅香る」許婚の二人の顔の幸福感。「まだまだと人生古希の春浅し」七十路の春、溢れる生命力。「お目出度い話ちらほら下萌ゆる」お目出度、は下萌の季語にピッタリ。他の投句に季重ね(季語が二、三)の句が多い。主題を一つに絞る。

選者 麻生 良昭

このコーナーは町民どなたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、電話番号をお書きのうえ企画編集課広報係までご応募を。なお、応募作品は返却しません。

原田 勝子
湯浅加代子
赤峰 幸子
穴井久美子
井上 マキ
玉井多喜子
甲斐 和子
小野十三日
清竹 勇蔵
的場 律枝
佐藤 元八
佐藤 修正
小野ミツノ
藤澤 節子

添削がありますのでご了承ください。 広報

このえ 時間旅行

ふるさと再発見 116

「わが家のお宝展」に寄せて(第2回)

九重町文化財調査員 甲斐素純



「台」の大書を出品された。なお同公園は、昭和61年9月には、「阿蘇くじゅう国立公園」と改称された。

先輩高木豊水(後に小倉藩の御用絵師となる)から絵を学ぶ。のち京都に上り小田海庵につき南宋画を学んだ。安政3年(一八五六)頃一時帰郷したようで、この頃公家の娘と結婚し一人娘サダが誕生した。南宋画家上旦の麻生珠溪は、サダと旧東飯田村初代村長麻生新一の長男。春所の画は町内に数点しか確認されていなく、希少価値が高い。孫の珠溪(一八七六〜一九五八)も、また優れた作品を数多く残している。

徳富蘇峰(一八六三〜一九五七)は熊本出身で、明治から昭和時代の言論人・歴史家・評論家で、蘇峰は号。国民新聞を発行し、「近世日本国民史」は有名。父一敬は横井小楠門下の四天王の一人で、小説家藍花は弟。「阿蘇くじゅう」という国立公園名に正式決定されるまでの長い間の経緯や、頼山陽以来くじゅう高原にまつわる文人墨客達の足跡をたどってみたい気もする。くじゅうの植物・動物・地質・鉱物・温泉・歴史・文化・民俗・芸術・観光・参考図書などなど、くじゅうの事なら何でもこい(分かる)の総合資料館、つまり「博物館」が、行政のワクを越えて設置されれば、素晴らしいのだけれど……。

昭和54年有志が計画して、玖珠農業高校体育館で大規模に「珠溪遺作展」が開催された。若いころから晩年の作品を編年順に展示すると、作風の変化など新たな発見もある。いずれ企画展で、このような郷土の偉人・文人達の作品や愛用の遺品を、系統的に展示してみたい気もする。

徳富蘇峰と平野五岳の掛軸その他を出品されたのは、田野の小野喜美夫氏。小野氏は飯田高原にあって、若い頃から文学に親しみ郷土史に造詣が深い。機会あるごとに高原を訪れた文人、芸能人などの直筆の色紙や関係品を収集し、保存されている。釜の口の「九重飯田ふるさと資料館」には、所狭ましと数々の資料が展示されている。観光資料の宝庫であり、また小野氏自身高原の生き字引きである。

玉井建治氏と六井誓語氏からは、郷土出身の画家麻生春所の作品が寄せられた。春所(一八二六〜六三)は旧右田村庄屋麻生寛蔵の弟で、天保11(一八四〇)年15才で広瀬淡窓の成宜園に入門し、同門の

徳富蘇峰(正徳書)の「白雲台」。久住町側のくじゅう山登山口をこう名付けた。

今度は「阿蘇国立公園」の指定(昭和9年12月)に関係して書かれた、蘇峰の「白雲

成宜園に入門し、同門の



くらしの情報

平成16年1月1日現在に償却資産 (固定資産税の課税対象)をお持ちの方は、 申告が必要です。

会社や個人で工場や商店などを経営しておられる方が、その事業のために用いることができる機械・器具・備品等の有形固定資産を償却資産といいます。

その内容を例示しますと、①建造物(煙突、鉄塔、舗装工事など)、②機械及び装置(旋盤、ポンプなど)、③船舶、④航空機、⑤車両及び運搬具、⑥工具、器具、備品、(測定工具、机、いす、ロッカーなど)などの事業用資産です。ただし、取得価格20万円未満又は耐用年数1年未満の償却資産は原則として課税対象とはなりません。

このような事業資産をお持ちの方は、平成16年1月1日現在の資産所有状況(資産の種類、取得価格、取得時期、耐用年数など)を平成16年1月31日までに役場税務課まで申告していただくことになっています。

【申告書の備え付け場所及び問い合わせ先】
九重町役場税務課資産税係 ☎ 76-3803 (直通)

家屋(固定資産課税対象物件)の 取り壊しをされた方へ

固定資産税(家屋)については、毎年1月1日(課税期日)現在において存在する家屋に対して課税が行われるしくみになっています。

したがって、平成15年中に家屋の取り壊しをされた場合(平成16年1月1日までに滅失登記を行った場合を除く)は、平成16年1月31日までに九重町役場税務課資産税係まで届出をして下さい。

取り壊しの届出がなされないとそのまま引き続き課税対象物件として課税される場合があります。

【届出の様式及び問い合わせ先】
九重町役場税務課資産税係
☎ 76-3803 (直通)



納税はお近くの金融機関で

国税の納税は、お近くの銀行や郵便局などの金融機関(日本銀行蔵入代理店)で納税することができます。

また、申告所得並びに個人事業者の方の消費税及び地方消費税は、預貯金口座から振替により自動的に納税できる便利な「振替納税」をぜひご利用ください。

日田税務署 ☎0973-23-2136
税務相談室 ☎0973-22-3073

農業所得は収支計算で

水稲の農業所得標準が平成15年分から廃止され、すべての農業所得者は、所得税の申告又は住民税の申告については、実際の収入金額から必要経費を差引く収支計算により農業所得を計算し、申告することになります。

収入金額の明細書等や必要経費の領収証・証明書等は保存・整理し、収支計算書を作成しておかれますようお願いいたします。

特に肉用牛の「肉用牛売却証明書(生産者用)」は、所得税・住民税の免税の対象になりますので、なくさないようにしてください。

なお、収支計算でわからないことがありましたら、お気軽に役場税務課や日田税務署へおたずねください。

問合せ先 九重町役場税務課
☎ 76-3803 (直通)
日田税務署個人課税部門
☎ 0973-23-2136 (代表)

「大学卒業予定者等就職面接会」を開催します!

日時 平成16年1月7日(水)
受付13時～、面接会13:30～16:00
場所 トキハ会館5F(大分市府内町)
ローズ・カトレアの間
対象者 平成16年3月大学・短大・高専・専修学校卒業予定者等

参加希望の事業主の方は「ワークプラザおおいた」に12月19日(金)までにお申し込みください。
参加を希望される学生の方は、履歴書を持参のうえ、直接会場にお越しください。

問い合わせ先
ワークプラザおおいた
☎ 097-533-8600 フリーダイヤル 0120-119201
ホームページ <http://www.sorin-ota.or.jp/>

大学生・社会人・青年のための国際交流 平成15年度冬期海外派遣事業参加者募集

行き先 イギリス・カナダ・アメリカ・オーストラリア・インドネシア・カンボジア

派遣時期 平成16年2月～3月
行き先ごとの日程・費用・申込方法等のお問い合わせ先
(財)国際青少年研修協会
TEL 03-3359-8421 FAX 03-3354-2207
E-mail→info@kskk.or.jp
URL→ <http://www.kskk.or.jp>



今月の納税・玖珠九重 農協旧支店収納窓口対応日

納付月	農協旧支店対応日	対応時間
12月	12月26日(金)・12月29日(月)	9:00～15:00

くじゅうの冬体験とスキー教室

と き 平成16年1月10日(土)～11日(日)
と ころ 九重少年自然の家
内 容 ナイタースキー・雪遊びなど
参加費 一人6,500円の予定
 (スキー用具のレンタル代は別)
 申し込みは12月26日(金)までに九重少年自然の家へ
 TEL. 79-3114 FAX. 79-3115

ちびっこ探検学校ヨロン島 参加者募集

期 間 平成16年3月28日(日)～4月3日(土)
場 所 鹿児島県大島郡与論町
対 象 小学校2～6年生(H16年2月末現在)
締 切 先着順で3月6日(土)まで
費 用 108,000円(博多発)
資料請求・お問い合わせ先 (財)国際青少年研修協会
 TEL. 03-3359-8421 FAX. 03-3354-2207
 E-mail→info@kskk.or.jp ホームページhttp://www.kskk.or.jp

「花のある生活風景」フォトコンテスト

花のある生活空間の良さを提案する写真を募集します。
応募規定 四つ切りサイズのカラーまたはモノクロプリント。未発表のもの。応募作品は返却せず、入賞作品の著作権は主催者に属する
応募期間 平成16年1月15日必着
応募方法 題名と簡単なメッセージ・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記したメモを作品に添付し、郵送してください。
お問い合わせ・送り先
 〒870-8501 大分市大手町3-1-1 大分県農政部流通園芸課内
 大分県花き消費拡大推進協議会
 「花のある生活風景」写真コンテスト係
 ☎ 097-536-1111 (内線3634)

まずチェック!働くルールの最低賃金

大分県の最低賃金時間額 **606円**は
 継続適用されることになりました。
 (効力発生日:平成14年10月1日)
 詳しくは大分労働局労働基準部賃金室
 (☎ 097-536-3215)まで。

県立日田高等技術専門校 入学生募集

科 目 情報ビジネス科・建築科・造園科(定員は各20名)
期 間 平成16年4月から翌年3月まで
 授業料は一切無料(教科書等の実費は必要)
募集期間 平成16年1月5日(月)～1月30日(金)
入校試験 平成16年2月16日
問い合わせ先(願書提出先)
 大分県立日田高等技術専門校(☎ 0973-22-0789)

NHK学園通信学生募集

種 類 (カッコ内は履修年数)
 広域通信制高等学校(普通科3年・選科1年)、専攻科・
 社会福祉コース(2年)、社会福祉士養成課程(2年)、
 生涯学習通信講座(3ヶ月～1年)
 各コースの募集対象・申込方法・願書受付については次のところへ
 NHK学園(TEL.042-572-3151、FAX.042-574-1006)
 ホームページ <http://www.nhk-gakuac.jp/n-gaku>

求人は玖珠郡職業相談室へ

仕事の相談・紹介、求人の相談受付など日田・玖珠地域の豊富な情報を備えてみなさんの相談をお待ちしています。
受付時間 (土・日・祝日は除く)
 8:30～11:30、13:00～16:30
場 所 玖珠郡職業相談室(玖珠町社会福祉協議会となり)
 ※ 雇用保険の受給手続きは行いません。
問い合わせ先 ハローワーク日田・玖珠郡職業相談室
 ☎ 73-9068

県立盲学校高等部生徒募集

教育内容 普通教育・職業(あんまはり・きゅう)教育
出願資格 両眼の矯正視力がおおむね0.3未満の人。
 または視機能障害が高度なうち、拡大鏡等によっても通常の文字・図形等の視覚による認識が不可能または著しく困難な程度の人(年齢制限なし)
出願期間 (前期)2月6日(金)～13日(金)
 (後期)3月10日(水)～12日(金)
募集学科試験月日等のお問い合わせ、願書の請求などは
 県立盲学校教務係
 (TEL. 097-532-2638またはFAX. 097-532-2636)まで。

町営住宅及び県営住宅入居者募集

募集住宅1 町営寺田住宅1戸
 住所 九重町大字野上1321
募集住宅2 県営松岡台住宅1戸
 住所 九重町大字右田3150
申込期限 平成16年1月9日(金)
問い合わせ及び申込先
 建設課計画管理係(☎ 76-3811)

今月の 年金相談

日時 12月24日(水)10:00～15:00
場所 九重町役場1階・102会議室

今月の納税

【国民健康保険税】
 納期限1月5日
 【固定資産税】第4期

人権 心の扉 NO.105

事件をめぐる物語です。

ある日、まだ少年であったお釈迦

さまの目の前に、弓で射落

とされた鳥がバタバタと羽

根を羽ばたかせながら苦し

んでいました。必死で飛ば

うとするのですが矢が突き

刺さって飛ぶことができず、

今にも死にそうです。

幼いお釈迦さまはいち早

く駆けつけると、その鳥を

抱きあげ、突き刺さった矢

を抜き取りました。それに

これは、お釈迦さまの少年時代の出来事として伝えられてい

る、一羽の鳥をめぐって友人の提婆達多と争う

なか決着がつきませんでした。とうとう最後には国中の賢者を集めて話し合ったのですが、それでも決着が

つきませんでした。

その時、それまで黙っていた一人の年若い賢者が、このような言葉を言ったのです。

「いのち」は、それを愛そう愛そうとして

いる者のものであって、それを傷つけよう傷つけようとしている者の

ものではない」と。

その言葉が終るや、騒がしかった他の賢者の声

が水を打ったように静まり返り、その言葉の真実性に

みんながうなずいて、一羽の鳥は少年釈迦のものになっ

たというのです。

これは、私たちが「いのち」に対してどのような関わり方をしているのかという

ことを教えられるものです。つまり、「いのち」への関わり方が傷つけるとい

いのちは誰のものか

社会人権・同和教育指導員 高藤 英利

「いのち」に対してどのような関わり方をしているのかということ

を教えられるものです。つまり、「いのち」への関わり方が傷つけるとい

うことである。これは、私たちが「いのち」に対してどのような関わり方をしているのかという

ことを教えられるものです。つまり、「いのち」への関わり方が傷つけるとい

うことである。これは、私たちが「いのち」に対してどのような関わり方をしているのかという

ことを教えられるものです。つまり、「いのち」への関わり方が傷つけるとい

＝平成15年12月・16年1月休日当番＝

病 院	月	日	医療機関名	住 所	電 話
病 院	12月	21日	長内科小児科胃腸科医院	春日町	72-2143
			麻生消化器科内科医院	山 田	72-7100
		23日	三池循環器科内科医院	塚 脇	72-6101
			友成(町田)医院	町 田	78-8811
		28日	玖珠記念病院	塚 脇	72-1127
		29日	井上 医 院	恵 良	76-2711
		30日	北山田クリニック	北山田	73-2030
	1月	1日	友成(産婦人科)医院	塚 脇	72-0330
			武田 医 院	森	72-0170
		31日	小 中 病 院	塚 脇	72-2167
			飯田高原診療所	飯 田	79-2138
		1日	後藤内科医院	昭和町	72-0676
		2日	矢 原 医 院	野 上	77-6121
		3日	高 田 病 院	春 日 町	72-2135
4日		長内科小児科胃腸科医院	春 日 町	72-2143	
		麻生消化器科内科医院	山 田	72-7100	
		三池循環器科内科医院	塚 脇	72-6101	
	友成(町田)医院	町 田	78-8811		
	玖珠記念病院	塚 脇	72-1127		
	井上 医 院	恵 良	76-2711		
	北山田クリニック	北山田	73-2030		
	友成(産婦人科)医院	塚 脇	72-0330		
	武 田 医 院	森	72-0170		

歯 科 医 生	月	日	医療機関名	住 所	電 話
歯 科 医 生	12月	21日	後藤歯科医院	日田市	0973-22-0002
		23日	上津江村歯科診療所	上津江村	0973-54-3198
		28日	秋吉歯科医院	玖珠町	72-0421
		29日	もちまつ歯科医院	日田市	0973-22-8071
		30日	石崎歯科医院	日田市	0973-22-3041
		31日	林 歯 科 医 院	日田市	0973-24-6690
		1月	1日	川津歯科医院	日田市
	2日		沢熊歯科医院	日田市	0973-22-2900
	3日		石井歯科医院	日田市	0973-24-6886
	4日		秋吉歯科医院	玖珠町	72-0421
	11日		荒木歯科医院	大山町	0973-52-2022
	12日		田吹歯科医院	日田市	0973-24-5510
	18日		井上歯科医院	右 田	77-6851

獣 医	月	日	獣医師名	電 話
獣 医	12月	20日・27日・30日	佐藤 獣 医	77-6448
	1月	2日・10日・17日・25日		
	12月	23日・29日	山本 獣 医	78-9101
	1月	1日・4日・11日・24日		
	12月	21日・28日・31日	甲斐 獣 医	76-3324
	1月	3日・12日・18日		

ス タ ン ド	月	日	店 名	月	日	店 名
ス タ ン ド	12月	21日	竹尾石油	1月	18日	小幡石油
	1月	4日	森石油	12/28-1/11		自由営業

備考 大分県中西部農業共済組合 ☎3409
休日当番の電話番号(携帯)は 090-5721-8191

★都合で変更する場合があります 玖珠消防署：●救急は119番 ☎72-2141 ●火災の確認は ☎72-5100

歳時記

季節

1月号

①自由題(新年元旦に関するもの)

②「風花」

(12月22日締切)

※締切がいつもより早く、必ず「お返す」を心がけてください。

2月号

「下萌」「春浅し」

「梅」

(1月26日締切)

今月の季節

「日向ぼこ」「短日(暮れ早し)」
「賀状書く」

日向ぼこ妻には長き生命線
車イス並べてケアの日向ぼこ
縁側で孫と童謡日向ぼこ
車椅子二つ並びて日向ぼこ
日向ぼこ猫と私のにらめっこ
ガラス越し絵を描き乍ら日向ぼこ
暮れ早し時計気になる立話
吾子がこと惚ぶうちにも暮れ早し
暮れ早し井戸端会議そこそこに
短日や夫見舞いていそぎ足
不揃いの字も真心の賀状書く
年老いて生きる幸せ賀状書く
メカに背を今年も手書き賀状書く
旧友へ元気の証賀状書く
暮れ早し手もちぶさたの休肝日

「日向ぼこ妻には長き生命線」夫妻相和し長寿を確かめ合う一景。「暮れ早し時計気になる立話」立話は楽しいが日が短い。「不揃いの字も真心の賀状書く」字は真心で補うと「謙遜」どの句も季語に響き合う季感があり、作者の感性がにじみ出ている。巧い。

選者 麻生 良昭

このコーナーは町民どなたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、取替番号をお書きのうえ企画調整課広報係まで応募を。なお、応募作品は返却しません。

清竹 勇藏
小野十三日

穴井久美子

佐藤 節代

原田 勝子

佐藤 元八

井上 マキ

田浦登志枝

岩尾 奈加

藤澤 節子

赤峰 幸子

小野ミツノ

佐藤 修正

湯浅加代子

選者 吟

添削がありますのでご了承ください。 広報

このえ 時間旅行

ふるさと再発見 114

発掘調査

九重町文化財調査員 今田しのぶ

近年、日本全国いろいろな

場所でも多くの発掘調査が行わ

れています。最近では町内でも

釘野城や書曲の集会所建設

予定地で発掘調査が行われま

した。今回は発掘調査につい

て触れてみたいと思います。

教育委員会で行う発掘調査

は、道路や建物の建設などの

開発によって遺跡が壊されて

しまう時に、そこにどのような

遺跡があったか、そこに住

んでいた人たちがどのような

生活をしてきたかの記録を残

すために行います。



発掘調査には、「現場での

発掘」と、「出土したものの

整理」の、二つの作業があり

ます。発掘作業は地面の下に

埋もれている昔の人が住んで

いた家の跡などの穴を掘り、

土器や石器といった昔の人が

使ったものを掘り出す作業で、

実際に見たことがある人も多

いと思います。ものを掘り出

す作業といってもただ掘って

いるのではなく、どの穴から

どのような状態で発見された

か、穴がどのように埋まって

いったかなどを図面や写真で

記録に残しながら掘っていく

ので時間がかかります。

発掘現場での作業が終

わると、整理作業が始

まります。まず、出土

した土器や石器を一点

一点洗って表面につい

ている土を落とします。

そして、出土したものの

の一点一点にどの遺跡

のどの穴から出土した

かを書いて、それから

ジグソーパズルのよう

につなぎ合わせていき

ますが、どれとどれが

つくかわからないので大変な作業です。形の復元ができたから土器や石器を実物大で実測して図面を描き、報告書に載せるために製図をします。整理作業は細かい作業が多く、発掘作業の何倍もの時間がかかりますが、このような作業を経て、遺跡からどの時代の穴やものが発見されたかをまとめた報告書が完成します。報告書が完成してやっと発掘調査は終わります。

町内の発掘報告書は図書館にありますので、興味のある方は見てみてください。



▲釘野城の堀切の断面 ※堀切とは地を掘って切り通した堀のこと

